



地元力財団

あなたの「ほっとけない」が見つかる これからの社会貢献 100

地元をよくするために、私たちは何をすべきなのでしょう。地元をよくするために何かしたいけど何をすれば良いのか分からないというあなたに向けて、あなたの地元、ここ和歌山の地域課題をデータを用いて見える化していきます。毎回異なるテーマ(分野)を取り上げ、地元の課題を端的に表すデータをご紹介します。

何が課題？数字でみる和歌山誌ne9 (特別編) 事業指定助成プログラム第2期寄付募集スタート

子育て環境をもっと良くする
10月31日付の紙面で「子どもの生活環境」について取り上げました。そこでは児童虐待に関する相談件数が年々増加していること、その原因のひとつに核家族化、近所付き合いの不足というライフスタイルの変化によって、子育てをしながらママが地域で孤立していることを挙げまし

前回この紙面では公益財団法人わかやま地元力応援基金(通称・地元力財団)の「事業指定助成プログラム」についてご紹介しました。この助成プログラムは市民活動団体が寄付を募りたい事業を申請し、地元力財団の選考会で採択された事業と連携しながら寄付を募集。また寄付する側はどの事業を応援したいかを選択して寄付をすることができ、プログラムです。

11月中旬に第2期採択事業の選考会が行なわれ、「ふあんふあん青空フェスタ(特定非営利活動法人fun・fun)」、「県立図書館文化活動サポート」(一般社団法人ふれあいライブラリー・虹)の2事業が採択されました。2事業は今年から来年3月末まで寄付を募集します。



特定非営利活動法人 fun・fun が実施しているイベントの様子。親子と一緒に楽しめるイベントなどを通じて、子育て環境をよくするための活動を実施中。

特定非営利活動法人 fun・fun が活動している岩出市では、1990年に約1万5千人だった子育て世代(20歳~49歳)が2010年には約2万人に増加しています。子育てをしているママのなかには、地域とのつながりを持てず、子育ての悩みや不安を共有できる場所がないママが多くいます。子育てをしているとどうしてか家に引きこもりがちになり、孤独感やストレスを感じることも結果として虐待という事態を招いていることを課題と捉え、子育てをしながらママが地域のなかでたのしく活動できる場所や子育ての悩みを共有できる場所を作り、地域でのつながりを生みだし子育て環境を良くすることを目指しています。

特定非営利活動法人 fun・fun が活動している岩出市では、1990年に約1万5千人だった子育て世代(20歳~49歳)が2010年には約2万人に増加しています。子育てをしているママのなかには、地域とのつながりを持てず、子育ての悩みや不安を共有できる場所がないママが多くいます。子育てをしているとどうしてか家に引きこもりがちになり、孤独感やストレスを感じることも結果として虐待という事態を招いていることを課題と捉え、子育てをしながらママが地域のなかでたのしく活動できる場所や子育ての悩みを共有できる場所を作り、地域でのつながりを生みだし子育て環境を良くすることを目指しています。

これら2事業は、地域の課題に気づき「ほっとけない」と感じた団体がその課題を解決するために考えた事業です。いずれも行政の支援だけでは実現が難しく、私たち市民が寄付で支えていく必要のあるものです。寄付募集目標額は「ふあんふあん青空フェスタ」が34万円。イベントを開催するための費用に充てられます。

市民の力で図書館から文化発信
和歌山県立図書館は1993年の新館開館以来20年間にわたって

虹が県立図書館における文化活動に共感し寄付などの協力を申し出る市民の受け皿となり、活動団体を支援し県立図書館でのコンサートや寄席、講演会などの文化活動をより拡充させていきます。このことを通じて、文化的感性豊かな和歌山県を実現していきます。

Editor's Voice

地元力財団では「地元に対する想いを寄付に託す」という新しい寄付の「カタチ」を提案しています。寄付はもちろん、明日からできる「あなたらしい」社会貢献のカタチを紙面で紹介してきました。当財団では「社会貢献支援相談窓口」を開設し、個人や団体、企業のみならずの地元に対する想いをカタチにしていくお手伝いをしたいと考えています。

また、昨今の社会貢献意識の高まりを受け、遺産を地元のために活かしてほしいという声やニーズはますます高まってきています。地元の課題が多種多様になるなか、それらの声に応える新しい仕組みが求められています。

公益財団法人わかやま地元力応援基金では、「遺産を地元のために提供したい、寄付したい、活用してほしい」という想いと、大切な遺産を地元の市民公益活動団体へつなぎ、活用していくための相談を受け付けています。

■お問い合わせ先
公益財団法人わかやま地元力応援基金「これからの社会貢献 100」係 (担当：酒井)
〒640-8331 和歌山市美園町 5-6-12
TEL 073-428-0011 FAX 073-428-0012
E-mail info@jimotofund.jp

「県立図書館文化活動サポート」は250万円、文化活動に必要な備品の購入やボランティアのメンテナンス、またボランティアの支援に充てられます。

寄付に関するお問い合わせ
地元力財団ではこの2事業について、各団体と連携しながら寄付を募集をおこなっています。寄付金は税制優遇の対象になり、個人からの寄付の場合は寄付金額の約半額が確定申告により還付、法人からの寄付の場合は損金算入限度額が拡大となります。

NPO Today 犯罪に巻き込まれた市民を支える

先日、犯罪に遭われた方への支援をおこなっているみなさんのお話をうかがう機会がありました。日常生活では犯罪に巻き込まれるなんて想像もしていない方が多いのが現実。実際には1人につき一生に1回あるかないかといった程度の確率だそうです。しかし、ひとたび犯罪被害に遭ってしまったら、「被害に遭ってしまった自分」を責める罪悪感と、「被害を起こした犯人」への憎しみとが入り交じった感情に支配され、例えばひたたくりに巻き込まれた方は買い物自体が怖くなるなど、日常生活にも支障をきたすことが多くなるそうです。

犯罪に遭われた方への支援をおこなっているみなさんのお話をうかがう機会がありました。日常生活では犯罪に巻き込まれるなんて想像もしていない方が多いのが現実。実際には1人につき一生に1回あるかないかといった程度の確率だそうです。しかし、ひとたび犯罪被害に遭ってしまったら、「被害に遭ってしまった自分」を責める罪悪感と、「被害を起こした犯人」への憎しみとが入り交じった感情に支配され、例えばひたたくりに巻き込まれた方は買い物自体が怖くなるなど、日常生活にも支障をきたすことが多くなるそうです。

特に性犯罪は「魂の殺人」と呼ばれるほど精神的ダメージが大きく、人権や尊厳を傷つけられ、自己嫌悪に陥るなどの深刻なトラウマを抱える被害者が少なくないといえます。記憶自体が傷つけられることで、自分をより責めてしまう傾向に陥りやすいそうで、性犯罪に遭われた被害者の方にはより長い支援が必要になります。被害に遭われた方と相対するにはまず信頼され

みんなでつくる情報板 わかやまイベントボード

- 初日の出を天守閣で
毎年元旦は和歌山城特別拝観が実施されます。初日の出は見られませんか?!
日時 1月1日(木・祝) 6:00~9:00
場所 和歌山城天守閣
内容 上記時間帯の登閣は無料になります。9時以降は平常通り有料での入場となります。先着1000人には記念品進呈。
問い合わせ 和歌山城整備企画課 (073-435-1044)
- 和歌山大学土曜講座
原則毎月第1土曜日に開催している公開講座。1月は第2週に開催。
日程 1月10日(土) 14:00~16:00
場所 和歌山大学地域連携・生涯学習センター(松下会館)
テーマ へき地医療や救急医療問題の背景を考える
問い合わせ 和歌山大学地域創造支援機構 地域連携・生涯学習センター (073-427-4623)
- ウィンター遊 ing2015 寄席
わかやま楽落会の「こども落語ワークショップ」に参加することもによる落語をお楽しみ下さい。
日時 1月10日(土) 10:30~12:00
場所 和歌山県立図書館メディア・アートホール
出演 びよんびよん亭うさぎ、怪獣亭玩具、甘辛亭きん、ポケット亭パンチ、抱っこ亭大好き、赤沼亭柿之助、勇気出し亭うな晴のみなさん。
内容 落語とこども大喜利
参加費 無料
問い合わせ わかやま楽落会 (TEL 090-2100-8263)
- ハープ&ドロシー アートの森の小さな巨人
映画とトークで映画の世界を楽しみましょう。
日時 1月11日(日) 14:00~
場所 和歌山県立図書館メディア・アートホール
内容 映画「ハープ&ドロシー アートの森の小さな巨人」の上映、大阪教育大学名誉教授・田中恒子さんと和歌山県立近代美術館教育普及課長・奥村泰彦さんによるアフタートーク。
入場料 500円(鑑賞料)
定員 200名
問い合わせ NPO法人和歌山芸術文化支援協会 (073-454-5858)